

鹿児島の地質41

霧島の火山

地質担当 多久島 徹

霧島山

霧島山は鹿児島と宮崎の県境にある火山群の総称です。最高峰の韓国岳(1700m)をはじめ、神話の山として知られる高千穂峰、多くの噴火記録が残る新燃岳や御鉢など大小20あまりの火山と火口湖が集まってできています。



霧島山 撮影:二宮忠信氏

溶岩がつくる地形

霧島山の地形は火山活動によってつくられました。火山や火口湖のほかにも溶岩によって作られた面白い地形が見られます。

不動池の地形を見ると、溶岩が流れ出した痕跡がよくわかります。この溶岩は六観音御池や甕岳の間の谷筋に沿って流れています。



国土地理院航空写真データ(C KU-76-10 C2-11)を加工
左から白紫池、六観音御池、不動池、硫黄山、
右上は甕岳

御鉢火山の788年の噴火で流れ出した溶岩は5 km以上も離れた霧島神宮の周辺まで流れています。溶岩の先端付近では、冷えて固まったときに柱のような割れ目を形成しました。これを柱状節理といいます。霧島神水峡では人工的な建造物のようにみえる美しい柱状節理が見られます。



神水峡の柱状節理

新燃岳の噴火

2011年1月26日に新燃岳が約300年ぶりに大噴火しました。26・27日の2日間に出た軽石や火山灰の量は、桜島の2011年の1年間の噴出量のなんと5倍にもなります。新燃岳の活動は9月まで続きました。



1月27日の噴火

それまで深い緑で覆われていた火口に近い部分も、この噴火活動で焼けてしまったり、火山ガスで枯れたり、噴石や火山灰に埋もれたりしてしまいました。

しかし、噴火から5年ほど経った今、植物は少しずつですが、再生しつつあります。そのたくましさには驚かされます。

霧島の現在

最近、新燃岳や硫黄山周辺で、また火山活動が活発になりそうな兆しがあります。特に硫黄山は火山ガスが噴出し、小規模な噴火が発生する可能性があるとして、火口周辺警報が出されました(平成28年3月29日解除)。

硫黄山は有毒な火山ガスや硫黄の影響で、周辺にはほとんど植物が育ちません。もし硫黄山の活動が静かになると、周辺の植生も大きく変化していくでしょう。私たちはその移り変わる様子を直接見ることができるかもしれません。

撮影:成尾英仁氏